

平成19年6月25日

各 位

会 社 名 シンワオックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐藤 勝 弘
(コード番号 2654 大証第二部)
問合せ先 取締役経営企画室室長 松浦 公司
(TEL. 06-6683-3101)

事業再編計画の策定に関するお知らせ

当社は、この度、第33期の利益計画を確実に達成させるべく、下記のとおり事業再編計画を策定いたしましたので、その概要についてお知らせいたします。

記

1. 計画の主旨

この再編計画は、前期の業績をふまえ、当社グループのもつ経営資源を有効かつ最大限に活用し、第33期の利益計画をより確実に達成させるために策定されたものであります。

2. 計画のポイント

- 1) 不採算店舗・事業の見直し
- 2) 本部費と中間管理費のさらなる圧縮の実施
- 3) 関係会社における独立採算を前提とした見直し
- 4) 役員報酬の見直し

3. 施策

1) 不採算店舗・事業の見直し

①卸売事業の見直し

合併(平成18年8月1日 旧(株)オックスと合併)の効果を最大限に発揮するため、昨年12月度より「ブランド開発部」を立ち上げ、外食店舗およびホテルのブランドを活用した商品の開発、販売を実施しております。その取り組みにより、ブランド訴求を効率化するだけでなく、粗利率の上昇に大きく寄与し、約2ポイント(4.6% → 6.7%)の上昇を目指しております。

②不採算店舗の撤退とそれによる効果

メニュー変更による原価率の削減や値引の縮小など様々な取り組みの結果、改善傾向にある店舗があるものの、継続的な赤字店舗に関しましては撤退をも余儀なくされると考えております。

不採算店舗の退店、売却および転貸等抜本的な改善を推し進めることで、年間約45,000千円の営業損失を吸収し、利益に寄与できる見込みであります。

また、同時に業態の集約をも視野に入れ、コスト削減につなげるとともに、退店店舗の余剰人員を既存店舗にシフトさせることによる人手不足の解消および採用費の圧縮等を実施してまいります。

上記の取り組みにより事業をスリム化し、採算店舗の営業に集中することで、早期の収益改善が実

現できるものと見込んでおります。

③ホテル事業の見直し

昨年のリニューアル工事（平成18年12月完了）に続き、チャペル等の改装工事が今年の1月下旬まで及んでいたため、前期におきましては本格稼働できる状態ではありませんでした。しかし、今期におきましては、人員の体制構築等ソフト面での整備も進み、本格稼働できる状態でスタートしており、ブライダルフェア等のイベントを積極的に開催することで、予約実績を確実に上昇させております。

また、収益率の高いブライダル部門を強化し、より確実な収益確保を行うためのアライアンスを検討してまいります。その取り組みにより、自社にないノウハウを蓄積し、ネットワークを最大限に活用することが可能となり、その結果、堂島ホテルにおける婚礼獲得件数の増加を見込んでおります。

2) 本部費と中間管理費のさらなる圧縮の実施

①システム関連業務の統合

物流センターにおける食材アイテムの登録業務を本部に移管するとともにメニュー登録等システム関連業務の一元化を図ります。それにより人員を圧縮し、人件費の削減を見込んでおります。

②間接費用削減に向けた組織再編の実施

外食・ホテル事業における人材開発に関わる業務を総務課に統合するなど、人員の異動、集約を行うことで業務の効率化を図り、間接費用の10%削減を目指してまいります。

3) 関係会社における独立採算を前提とした見直し

①㈱関西村さ来

現状、直営13店舗の内、不採算店舗に関しましては、「益益 東加古川店」の退店が決定しております。それにより年間約4,000千円の営業損失を吸収し、利益に寄与する予定であります。

②オックス香港

現状、14店舗の運営店舗の内、3店舗の退店が既に決定しております。その中には契約上の理由による退店も含まれますが、合計で年間約35,000千円の営業損失を吸収し、利益に寄与する予定であります。

いずれも独立採算の体制にすべく、不採算店舗の退店をはじめとする抜本的な改善を推し進めてまいります。

4) 役員報酬の見直し

平成19年4月17日の取締役会において、業績低迷の責任を取り、報酬を最大20%削減することが決議されており、既に4月度より実施しております。

以 上